

警戒レベル3 ～「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたら避難を開始～

▶ 高齢者等の避難に協力

お年寄りや小さなお子さん、身体の不自由な方が、早めに避難できるよう、近所のみなさんは避難に協力しましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや病気の人たちには、ふだんから気配りが必要です。



▶ 河川沿いは早めに避難

突発性が高く予測が困難である土砂災害の危険性がある区域や、急激な水位上昇のおそれがある河川沿いについては、「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された段階から自発的に避難を開始しましょう。

警戒レベル4 ～避難勧告が発令された地域で危険な場所にいる人などは避難～

避難所に移動することによりかえって命に危険を及ぼしかねない場合は、近隣のより安全な場所に避難してください。また、外出すら危険な場合には屋内で安全を確保してください。

▶ 複数で避難・隣近所に声をかけましょう！

一人で避難すると、事故にあったとき非常に危険です。複数で避難し、隣近所に声をかけていきましょう。



▶ 危険な場所は避けて避難しましょう！

ガード下や、がけ地、堤防などを通るのは危険です。近道であっても避けましょう。橋を渡ることは避けて避難しましょう。



履物に注意しましょう！

運動靴が最適です。長靴は浸水が深いと中に水がたまるので動きにくくなります。

マンホールに注意しましょう！

大雨によりマンホールのふたが外れることがあります。杖や棒などで足元を確認しながら避難しましょう。

車での避難は控えましょう！

自動車での避難は緊急車両の妨げとなりますので、特別の場合を除きやめましょう。

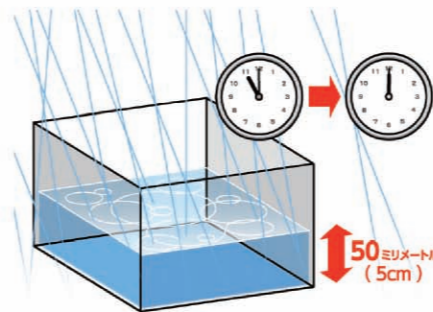
歩ける深さに注意しましょう！

浸水時に歩ける深さは、ひざの高さ程度までです。水かさか腰までであると疲労しやすく、流速がある場合は20cm位の水かさでも危険です。高い場所で救援を待ちましょう。

洪水について知る

1時間に50mmの雨とは

テレビの気象情報などを見ていると「1時間に〇〇ミリの大雨が…」と説明しているのを良く聞きますが、実際にイメージしにくいと思います。では1時間50ミリの雨とはどの程度の雨なのでしょうか。



「1時間に50ミリの雨」というのは雨水が別の場所に流れず、そのままたまる状態で、「1時間に雨水が50mmの高さまでたまる」規模の雨です。



傘を開いたときの面積が概ね1平方メートルで、1時間傘を差していると、傘には牛乳パック50本分もの雨が当たることとなります。

1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨が降るおそれがあります。



まわりの雨水があつまると・・・

内水氾濫と外水氾濫

降った雨を排水処理できず、建物や土地・道路が水に浸かってしまうことを内水氾濫といいます。外水氾濫と比べて、浸水規模は小さいですが、いたるところで発生しやすい特徴があります。

外水氾濫は、河川の堤防から水が溢れ又は破堤して、家屋や田畑が浸水することをいいます。外水氾濫が発生すると広い範囲が浸水して、大被害が発生する恐れがあるので特に注意が必要です。



大雨が降ると川の水位が上がり、排水されにくくなり、下水道などがあふれてしまいます。

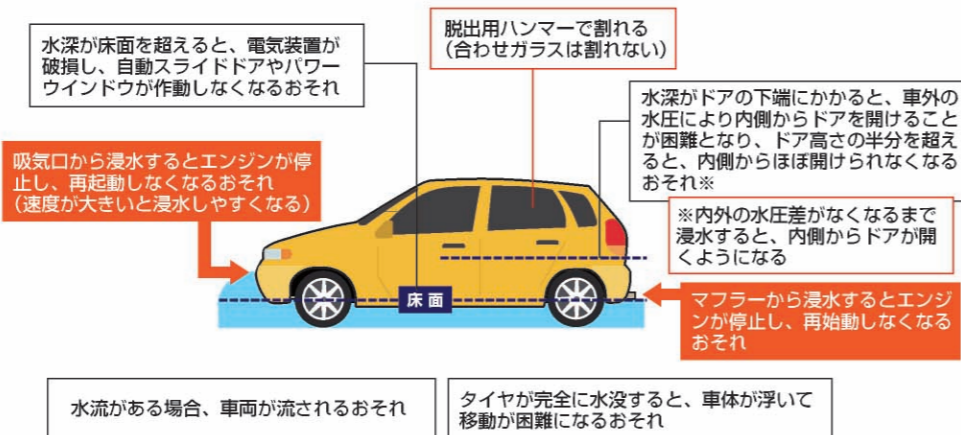


崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲い掛かります。

topic ～走行中に自動車が水没したらどうなる？～

令和元年の台風19号等による大雨においては、自動車が水没する等により、運転者や同乗者が亡くなる事故が相次ぎました。

自動車は、エンジンやモーターで駆動し、電気装置により制御されているため、水深が車両の床面を越えて車内へ浸水すると、様々な不具合が発生するおそれがあり、最悪の場合、エンジンやモーターが停止して移動できなくなります。また、水深がドアの下端にかかると、車外の水圧により内側からドアを開けることが困難となり、ドア高さの半分を超えると、内側からほぼ開けられなくなります。



topic ～教訓を忘れない～

毎年8月に行われる「鹿島おどり」は1963年(昭和38年)に始まり、50年以上続くお祭りです。始まったきっかけは1962年(昭和37年)7月8日に鹿島をおそったおそろしい大水害でした。

梅雨の大雨で川の水があふれて家が流されたり泥水に浸かったりして、5人の方がなくなりました。

まちに元気を取り戻そうと立ち上がった若者たちにより、市民みんなの大きな夏祭りを行うことになったのです。市民は鹿島おどりのおかげで元気を取り戻し、復興に向けた最初の一步を踏み出しました。



水浸しになった鹿島平野 (写真: 鹿島市提供)



にぎわいを取り戻した鹿島おどり (写真: 鹿島市提供)